

# 山行報告書

神戸勤労者山岳会

1. 参加者 CL: 矢古宇、SL: 尾崎、千賀、義間

2. 山城/ルート 阿弥陀岳南稜

3. 交通手段 自家用車

## 4. 行動記録

<入山日 2017年3月3日(金)。 下山日 2017年3月5日(日)>

第1日 2017年3月3日(金)

20:45 JR 三ノ宮駅集合 → 21:30 西宮

第2日 2017年3月4日(土)

→ 2:00 諏訪湖 SA (車中仮眠) 6:00 起床 7:00 諏訪湖 SA 発

→ 7:30 舟山十字路 (準備) 7:50 舟山十字路発 → 9:00 旭小屋(跡?)

→ 12:30 立場山 → 14:10 P1/P2 コル テント泊 19:30? 就寝

第3日 2017年3月5日(日)

3:00 起床 テント撤収 5:45 P1/P2 コル発 → 6:50 P3 基部

→ 9:00 P4 基部 → 9:40 阿弥陀岳 → (御小屋尾根) → 不動清水

→ 13:00 御小屋山 → 14:30 舟山十字路 美濃戸口(入浴、食事) → 帰神

第4日

20:30 JR 三ノ宮駅集合 → 21:30 西宮 → 2:00? 舟山十字路(登山口) 仮眠

6:00 起床 7:00 舟山十字路 → 8:00 旭小屋跡 → 11:00 立場山 → 12:00 青ナギ → 13:30 P1/P2 コル テント泊

行動時間 計6時間30分

3:30 起床 テント撤収 5:30 P1/P2 コル発 → 6:30 P3 基部 → 8:00 P4 基部 → 9:00 阿弥陀岳山頂 → (御小屋尾根) →

10:40 不動清水 → 12:00 御小屋山 → 13:30 舟山十字路 温泉後帰神 行動時間 計8時00分

## 5. 山行中の問題点・事故に繋がる要因

a) 予定のルート・日程で行動出来たか?

予定ルートをはずれた場合、あるいは日程が異なった場合はその理由

・ 予定では、舟山登山口での車中仮眠だったが、準備等を考慮し、諏訪湖 SA に変更した。

b) 事故に繋がりそうな要因(ヒヤリハット)が発生したか?

発生した場合、具体的に記す

・ P4 のトラバースでロープを出した際、ザックの残置に気付き、ロープ確保で取りに降りた。

c) パーティーで、山行中の事故に繋がる要因につき、山行後検討したか?

## 6. その他、ルートに関する情報・気がついた事など記す

- ・ 舟山登山口の駐車スペースには、数台停まっていた。
- ・ 旭小屋（跡？）はかなり傾いており、緊急時以外は利用しない方が賢明。トイレは、床が危ういが、使用可。
- ・
- ・
- ・ P1/P2 コルはある程度のスペースがあり、テント泊には充分であった。トイレも、大用、小用を設置できた。
- ・ 共同食は、炭水化物定食にならないよう、そして、炊きたてのご飯を美味しくいただくためのガッツリ系。炊きたてのご飯（無洗米 5 合）、焼肉（ロース 800g、ミノ 200g）、インスタント豚汁。アテとして、春らしく、菜の花のお浸し、アスパラベーコン、他。食べ盛り（？）の 4 人だが、さすがに若干食べ過ぎの感あり。食後のデザートとして用意していた桜餅は翌朝にいただいた。
- ・ 日曜の出発は、日が出て明るくなってから。
- ・ P3 の取り付けまでのトラバース？も少し嫌な感じだったので、ロープを出した。
- ・ P3 ガリーの手前で、千賀さんが「嫌なものを見てしまった」と。お花とお線香が備えてあった。1 ヶ月程前の早稲田の学生の事故現場ということだろうか。亡くなった学生のご冥福と、私達山行の無事のため、手を合わせた。
- ・ P3 ガリーは、一見、登れそうに見え、千賀さんはそのまま登り始めたが、数 m 登ったところで下が氷になっていたため、ロープ確保をすることとした（矢古宇がビレイ）。矢古宇はロープにカラビナを掛け、義間さんは末端を結び確保され、尾崎さんのサポートで登った。2 ピッチ目は、千賀さんがそのままビレイし、矢古宇が登ればロープ捌きがスムーズになるため、不安はあったものの、トライした。ピッケル、バイル、アイゼンを使うため、直接自分の手足で登る岩とはやはり感覚が違い、緊張も増し、視野も狭くなり、かなりもたついた。私のすぐ後ろを、尾崎さんは難なく？登ってきており、当然とはいえ、経験の差を実感した。大岩のリングも見落とし、尾崎さんに指摘される始末。支点は途中の木を用いた。オーバー手袋ということもあり、カラビナやシュリングの扱いがスムーズにできなかった。時間短縮のため、メインロープでの支点作成を見につけるよう、アドバイスを貰った。
- ・ P4 のトラバースでは、安全のため、ロープを出した。その後、稜線まで登ってロープを回収した。
- ・ 以降、阿弥陀岳山頂までは特に問題無く登れた。山頂には、北稜もしくは中岳から登頂した登山者が 10 人程、寛いでいた。





テン場から



P3



P4 トラバース



阿弥陀岳山頂

報告者氏名 矢古宇靖子

2017年 4月 8日